

概要版

熊野町都市計画マスタープラン



筆のまちへ



筆の里工房



平成24年 4月

熊 野 町

都市計画マスタープランにおいて基本とする考え方

■ 社会概況

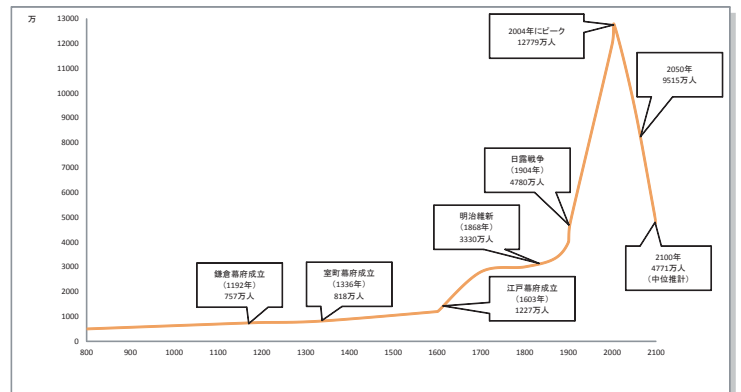
日本の総人口は2009年時点で1億2751万人であり、2004年の1億2779万人をピークにすでに減少が始まっています。中位推計※では、2020年では1億2274万人、2030年では1億1552万人に減少し、2050年には1億人を割り、2080年にはピーク時の約半分、2100年には5000万人を割ると予測されています。

さらに世帯の割合についても、平成22年の国勢調査で、これまでもっとも多かった夫婦2人と子供による核家族世帯よりも、単身世帯の割合が上回り、この傾向は今後ますます進むと予想されています。人口減少が進む中で、これまで一般家庭として考えられてきた世帯が減少し、単身世帯(高齢者、結婚しない若年層)が増加していくことで、これまでとは大きく違う社会の様相になることも考えられます。

日本全体の人口が増えていた時代には、人口減少に悩まされていた自治体は他自治体からの流入者を増やすことで、減少を抑えることを課題としてきました。しかし、日本全体の人口が大幅に減少することが予測される、これからの時代は、国内の他の地域から人を集めることはより一層難しい課題となります。

今後は、人口が減少することを前提にした、人口が減ることの利点を享受できるような都市づくり、或いは人口減少を問題としない都市づくりが必要になると考えられます。

【日本の総人口の超長期的推移】



国立社会保障 人口問題研究所の資料より作成

■ 基本方針

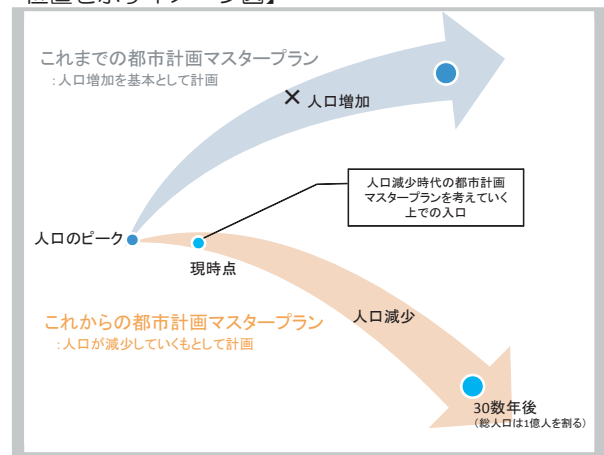
上記のような社会状況を踏まえ、第5次熊野町総合計画では、目標人口を平成17年[2005年]の人口25100人を基準とする現状維持型の人口設定としています。しかしながら、全国的に人口減少の進行が予想される中熊野町のみが人口維持を続けることが困難であることは想像に難くありません。

今回の都市計画マスタープランは、人口が大きく減少した将来を目標としたものではありません。これまで人口増加の視点で考えられてきた都市計画マスタープランを、急に方向転換させ、大きく人口減少した将来のことについて計画しても、現時点では非常に予測が困難であり、多くの人に受け入れられにくいと考えられます。

そこで、現在の状況から、いかに人口が減少した状態に向けた都市づくりにシフトしていけるのか、今後どう変化していけるのか、について考え、今はその最初の段階にいるというスタンスで、検討を進めました。

「今まで当然だと思っていたものに、新しい光をあて魅力を発掘することができないか、その魅力で住民の気持ちを動かし、前向きなムーブメントを起こすことができないか」という視点で、今一度、まちを見直してみることで、人口減少時代の都市計画マスタープランへとゆっくり変化させていく最初の段階として、今後の大幅な人口減少時代を考慮しつつも、これまで熊野町で行われてきた都市づくりの経緯・蓄積を基に、熊野町が持つ地域資源を活用していくことが基本方針となります。

【都市計画マスタープランを考えていく上での現時点の位置を示すイメージ図】



※) 将来の人口を推計する上でのパラメーター（出生率、死亡率、国際人口移動）の仮定を中程度とした推計

都市計画マスタープランの役割

■ 都市計画マスタープランの性格

熊野町都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」です。それは、「ひと まち 育む 筆の都 熊野」を目標とした都市^{まち}づくりの将来像とその実現への方向性を示す計画であり、まちづくりの主体である町民、企業、行政がその基本的な考え方として共有するものです。

■ 計画の位置づけ

都市計画 マスタープランは、“第5次熊野町総合計画”を踏まえて、長期的視点から都市の将来像を描くとともに、その内容を実現するための都市^{まち}づくり分野における総合的な指針となるものです。

従って、総合的な視点でとらえた土地利用の方針、都市施設の整備方針等を明らかにしたものであり、個別の都市計画における根拠となる計画として位置づけるものです。

■ 計画の目標年次

熊野町都市計画マスタープランの 目標年次は、西暦 2020 年（平成 32 年）とします。なお、本計画は、社会情勢の変化、上位計画の改定等に対応するため、必要に応じて見直しを行うこととします。

**まち
都市づくりの目標**（「ひと まち 育む 筆の都 熊野」[第5次熊野町総合計画における熊野町の
将来像]の実現に向けて、4つの視点をもって都市^{まち}づくりに取り組んでいきます）

第5次熊野町総合計画（基本理念・将来像）

ひと まち 育む 筆の都 熊野

こころもからだも健やかな
「ひと」を育む熊野

暮らしやすく、元気な
「まち」を育む熊野

総合基本計画を具現化する4つの視点

都市計画における 都市^{まち}づくりの基本的方向

まちの骨格づくり

熊野町と各地域とを連絡する広域交通網、将来の都市機能や土地利用を結びつける地域内交通網を整備し、人々の生き生きした交流を支える骨格づくりを目指します。

自然と共生するまちづくり

都市美を支える独特の自然緑地等を保全し、環境負荷を極力小さくする努力を続けるなど、自然と人とが共生する 都市^{まち}づくりを目指します。

将来都市構造

個性と活気のあるまちづくり

特色のある歴史文化や、地域文化を活用した 都市^{まち}づくりを図るとともに、産業拠点の形成や中心市街地の活性化など個性豊かな活気あふれる 都市^{まち}づくりを目指します。

人にやさしいまちづくり

文化・娯楽・学習・医療・憩い等の諸機能がバランス良く整備され、防災やコミュニティ等の魅力ある 拠点・安全で快適な歩行者空間の確保を図るなど、人にやさしい 都市^{まち}づくりを目指します。

将来の都市構造

(^{まち}都市づくりの4つの視点[まちの骨格づくり・自然と共生するまちづくり・個性と活気のあるまちづくり・人にやさしいまちづくり]から創り出される将来の^{まち}都市の姿)

骨格づくり



県道を中心に、これまでに培われてきた市街地空間を基調に都市機能の充実を図る都市軸（生活軸）の形成



広域連携軸の形成（主要都市との連携を支える道路）



文化的資源を活用し、熊野 筆の文化と歴史が体験できる「筆の軸」の形成

拠点づくり



商業・観光・公共施設・文化機能が集積するにぎわい交流拠点の形成



都市の活力を高める産業拠点の形成



生活利便性の充実と、安全に歩ける空間を確保した快適空間づくり

将来の都市構造



水と緑のネットワークづくり



市街地と周辺緑地とを有機的に結び、自然回復・環境保全・親水空間化を図る環境軸の形成



緑の核の形成（人・文化・緑とのふれあいの場として個性的に整備する公園・緑地）



幹線道路



主要道路

土地利用の方向性



専用住宅地としての良好な住環境の保護・育成を図る地区



町の基幹産業である筆産業の育成と良好な田園景観と調和した住宅地の保護・育成を図る地区



集落の活性化にも配慮しつつ、農業の振興と農地の保全・育成を図る地区



市街地の背景としての緑地空間の保全や自然環境の保全を図る地区



熊野町役場